

高岡地場もの市場 オープン2カ月

身近な店 住民に好評



店は、高岡青果市場の卸業者らが共同出資した新会社「高岡ローカルフーズ」が運営する。地域の買い物弱者、地元生産者、食品加工業者の支援などを目的に、市の助成を受けて昨年11月19日に開業した。

現在は、冬の寒さで甘みを際立たせた県産野菜「とやまの寒甘（カン

カ）」の出荷が盛んで、ホウレンソウやイチゴが並ぶ。椅子と机が並べられた2階は誰でも利用でき、無料でコーヒー、お茶を提供している。市「ミニユーティーバス「こみち」乗客が待ち時間に利用する姿も見られる。

店から半径800㍍の地域では、一定の金額以上を購入すると店員が自宅まで品物を届けてくれるサービスがあり、店まで行けない高齢者が電話で注文するなどして好評を得ている。

今後は、市商工会と協力して「高岡昆布まつり」を年4回開こうと相談を重ねている。釣賀店長は店を憩いの場として定着させ、「生産者も買い物客も笑顔になるような店を作り、まちを盛り上げていきたい」と話した。

高岡産を中心に飛越能の野菜や加工品を販売する高岡市御旅屋町の「高岡地場もの市場」は19日、オープンから2カ月を迎えた。1日約160人が利用し、500人を超えた日もあった。歩いて訪れる地域住民が多く、「新鮮な野菜が買えてありがたい」「近くにスーパーがないので助かる」と喜ばれている。釣賀隆穂店長は、中心市街地である御旅屋商店街にぎわいに一役買いたいと意欲を示している。

中心街 御旅屋盛り上げ日指す

オープンから2カ月を迎えた高岡地場もの市場